

# 野球肘検診の必要性

野球肘検診は子ども達の骨軟骨障害を発見するためのものです。検診の主な目的は重症化しやすく選手生命を奪う、離断性骨軟骨炎の早期発見・治療にあります。離断性骨軟骨炎は骨の未完成な小学生時にほとんどが発生し、早期に発見し治療すれば完全に治ります。痛みがあまり無いことと、軟骨がはずれるまでに1~2年以上かかることから、本人も周囲も障害に気づかずに投げ続けることとなります。痛みが続くようになってから、病院を受診したのでは手術を要したり、手術をしても完治しないこともあります。このようなことから症状のない時に検診を行い超音波やレントゲンなどの画像検査をする必要があります。指導者・保護者の皆さまには成長期野球肘の実情をご理解頂き、未来のある少年野球の選手生命を守るためにも検診に参加頂きますようお願い申し上げます。検診内容としては下の写真があります。



(×)を押して  
痛みを確認



レントゲン



超音波での検査と画像



外反ストレス



肘の可動域 目線がポイント！

